令和８年度
全国学力・学習状況調査の結果概要

忠岡町教育委員会

令和８年度　全国学力・学習状況調査　忠岡町結果概要公表について

（１）調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

（２）対象学年

●小学校第６学年、義務教育学校前期課程第６学年、支援学校小学部第６学年

〈大阪府（公立）実施対象校数・児童数　９６６校・６７,９９３人〉

●中学校第３学年、義務教育学校後期課程第３学年、支援学校中学部第３学年

〈大阪府（公立）実施対象校数・生徒数　４７０校・６４,４７６人〉

（３）調査内容

①教科に関する調査　・小学校等【国語・算数】　・中学校等【国語・数学・英語】

②質問調査　・児童生徒に対する調査　・学校に対する調査

（４）実施日

令和８年４月２３日（木）　※中学校英語（聞くこと・読むこと・書くこと）は、４/２０～４/２３の期間内で指定日に実施。

※中学校英語（話すこと）は、４/２４～５/２９の期間内で指定日に実施。

（５）今年度調査の特徴

●教科に関する調査は、国語、算数、数学、中学校英語を実施。（中学校英語は、ＣＢＴ・ＩＲＴ方式にて実施。）

●児童生徒質問調査は、原則全ての児童生徒を対象に、オンライン方式により実施。

●紙面で実施する調査の後日実施は、４月２４日（金）から４月３０日（木）まで実施。

（６）　調査を実施した忠岡町の実施校数・児童生徒数

●実施校数　小学校：２校　●児童生徒数　小学校：１２２人

中学校：１校　中学校：国語１１０人・数学１１１人・英語１０５人

公表に関する配慮事項について

令和８年度全国学力・学習状況調査実施要領に基づき、次の点に配慮し公表する。

●忠岡町教育委員会は、保護者や地域の住民に対し、町内における教育及び教育施策に関する説明責任を果たす観点から、調査結果を公表する。

●本調査の目的及び調査結果が学力や学習状況、生活状況の特定の一部分である。

●学校ごとの児童生徒の学力の結果が明らかになる公表は行わない。

●本町は、公立中学校が１校であるため、町教育委員会において公表することが、学校単位の公表となるため、中学校の学力の結果は非公表とする。

●本町の特徴的な課題と改善方策を公表する。

全体の概要についてⅠ（学力に関する調査より）

●【小学校国語】語彙理解等の「知識・技能」や読解・記述等の「思考・判断・表現」の問題ともに、概ね正答率が全国・大阪府よりも低くなっている。特に、情報を整理し、自分の経験と結びつけて考えをまとめる力に課題がある。

●【小学校算数】「思考・判断・表現」の問題で、全国・大阪府よりも高くなっているものが多い。特に、表から誤りのある項目を見つけ、その根拠を表と言葉を使って記述する問題がよくできている。

●【中学校国語】語彙理解等の「知識・技能」や読解・記述等の「思考・判断・表現」の問題ともに、概ね正答率が全国・大阪府よりも低くなっている。特に、「読むこと」の目的に応じて必要な情報に着目し、内容を解釈する力に課題がある。

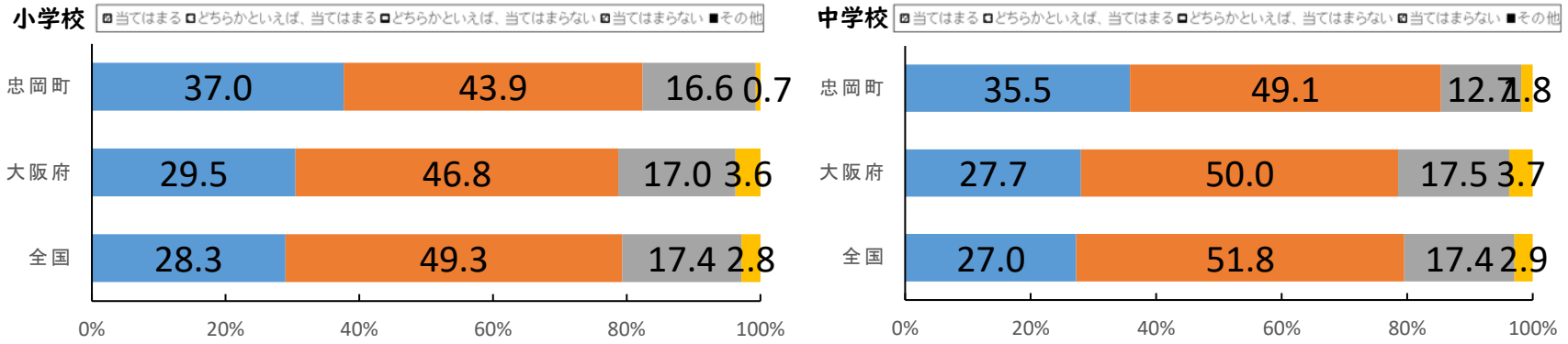
●【中学校数学】「知識・技能」「思考・判断・表現」の問題ともに、概ね正答率が全国・大阪府よりも高くなっている。特に「図形」「関数」「データの活用」の領域が高く、証明や累積度数の問題がよくできている。

●【中学校英語】「思考・判断・表現」の問題で、全国・大阪府よりも高くなっているものが多い。特に、文章を読んで事実や要点を捉え、そこから自分の考えたことを整理して、まとまりのある文章を書くことができている。

全体の概要についてⅡ（学習状況に関する調査より）
～忠岡町令和８年度の重点取り組みにかかる概要～

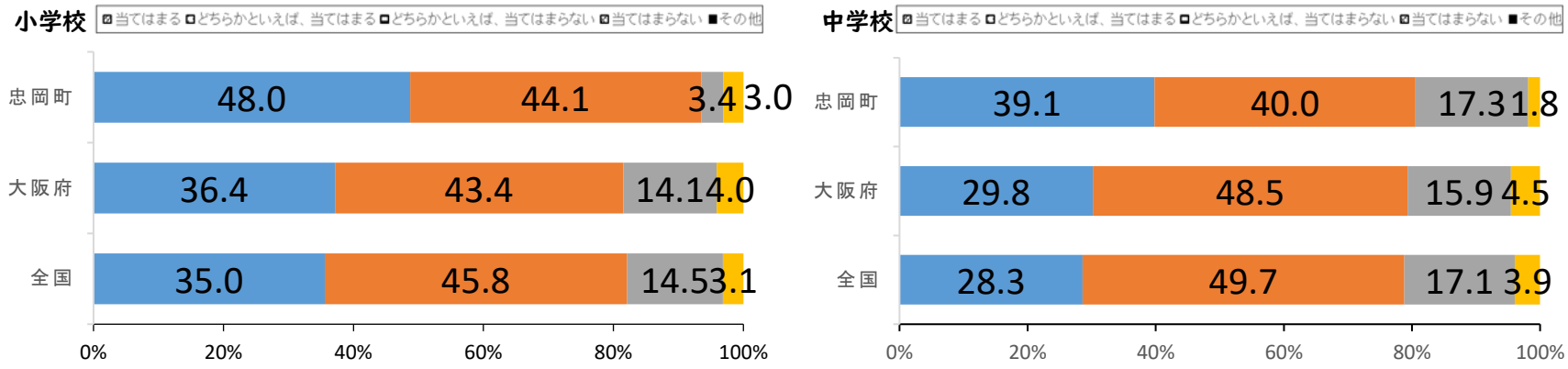
①【自ら考え取り組む子を育てる】「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」

小学校・中学校ともに、肯定的評価「当てはまる」の割合が、全国・大阪府と比べて高く、成果が見られる。



②【自ら考え取り組む子を育てる】「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができると思いますか」

小学校・中学校ともに、肯定的評価「当てはまる」の割合が、全国・大阪府と比べて高く、成果が見られる。

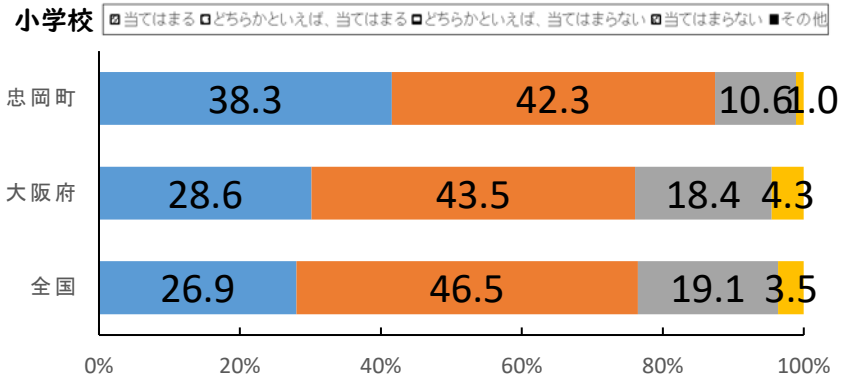


全体の概要についてⅡ（学習状況に関する調査より）
～忠岡町令和８年度の重点取り組みにかかる概要～

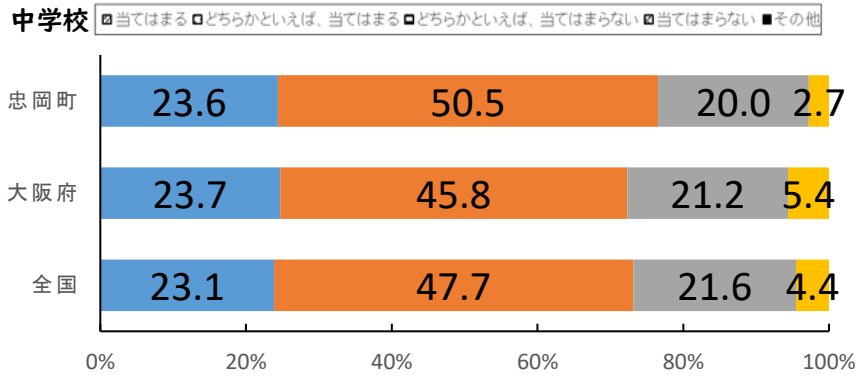
③【授業で自分の考えをまとめ説明や発表ができる子どもをふやす】「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」

小学校においては、肯定的評価「当てはまる」の割合が、全国・大阪府に比べて高く、成果が見られる。
中学校においても、肯定的評価「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計割合が、全国・大阪府に比べて高く、成果が見られる。

小学校



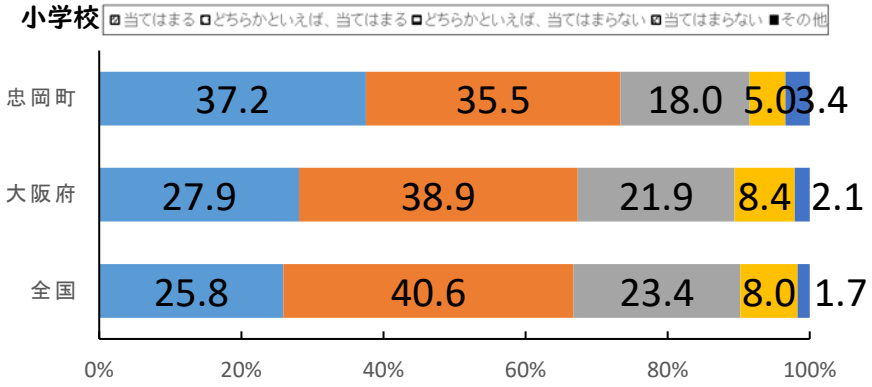
中学校



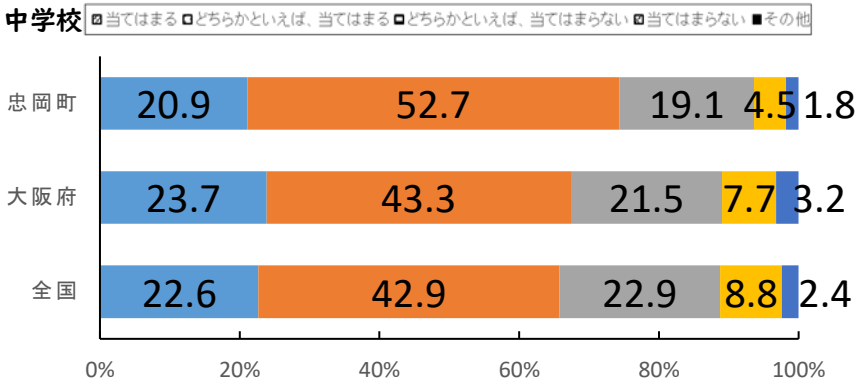
④【授業で自分の考えをまとめ説明や発表ができる子どもをふやす】「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」

小学校においては、肯定的評価「当てはまる」の割合が、全国・大阪府に比べて高く、成果が見られる。
中学校においても、肯定的評価「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計割合が、全国・大阪府に比べて高く、成果が見られる。

小学校



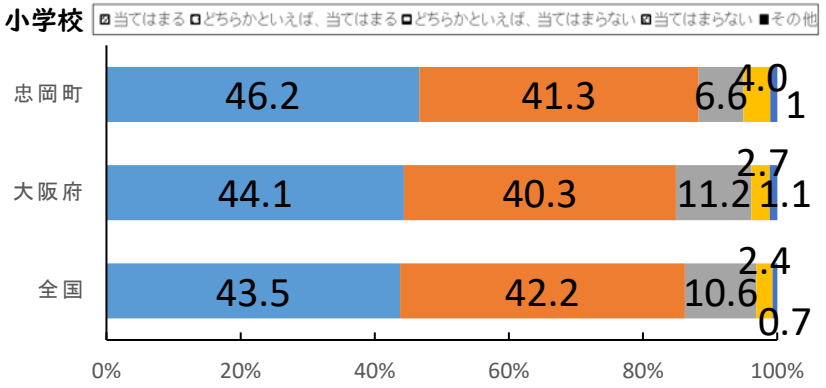
中学校

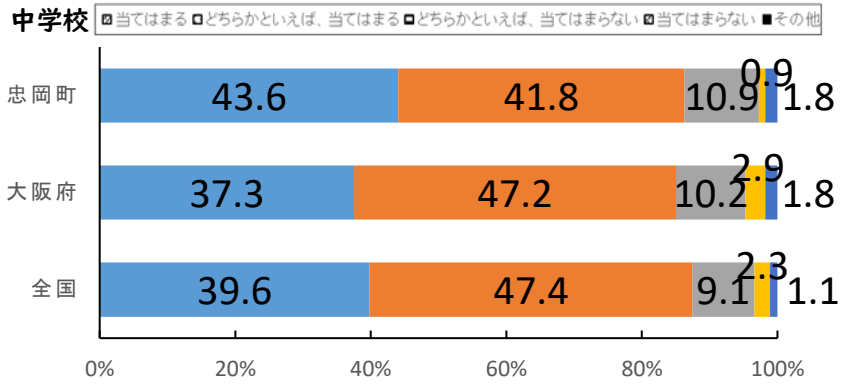


全体の概要についてⅡ（学習状況に関する調査より）
～忠岡町令和８年度の重点取り組みにかかる概要～

⑤【授業で自分の考えをまとめ説明や発表ができる子どもをふやす】 「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」

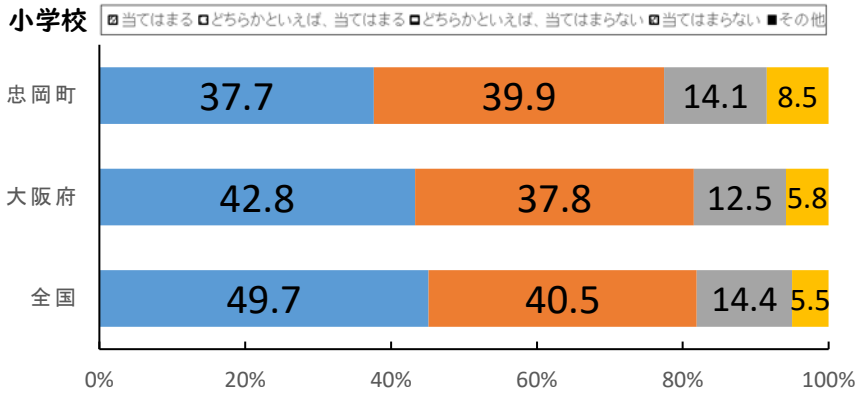
小学校・中学校ともに、肯定的評価「当てはまる」の割合が、全国・大阪府と比べて高く、成果が見られる。

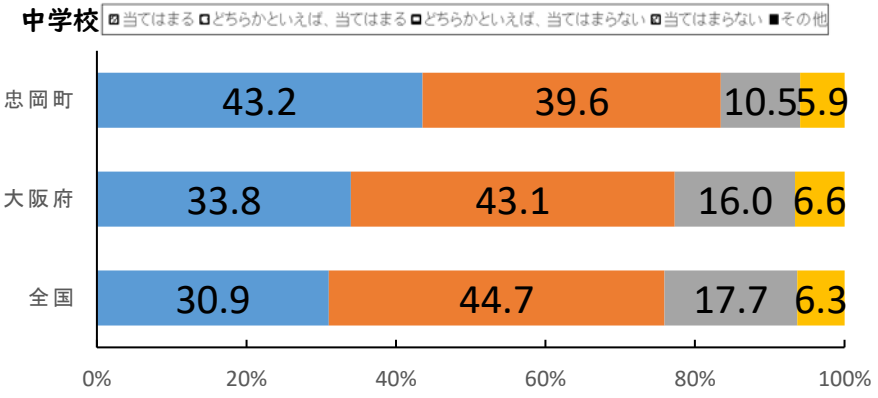




⑥【授業内容がわかる子どもをふやす】 「国語・算数（数学）の授業の内容はよくわかりますか」・・・国語・算数（数学）の合算データ

小学校においては、肯定的評価「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計割合が、全国・大阪府に比べて低く、課題が見られる。
中学校においては、肯定的評価「当てはまる」の割合が、全国・大阪府に比べて高く、成果が見られる。

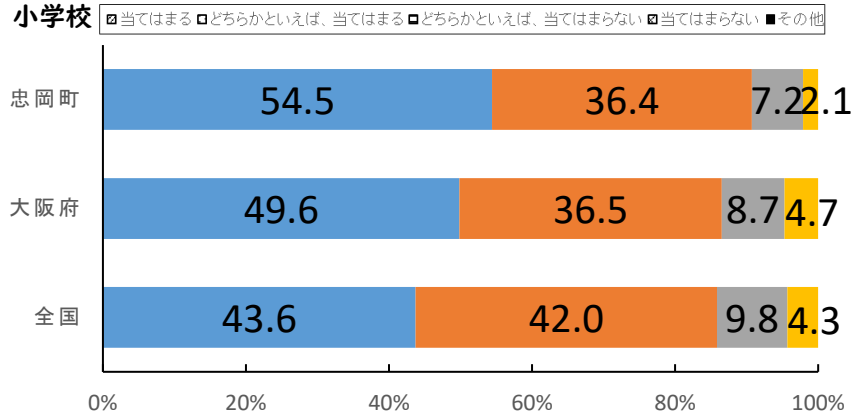


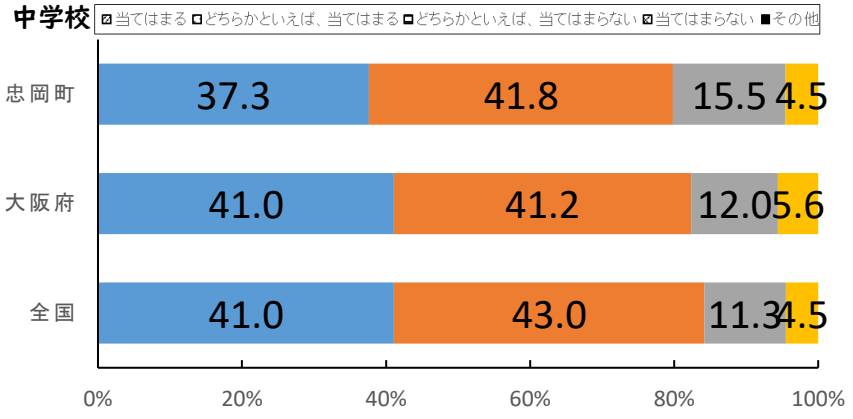


全体の概要についてⅡ（学習状況に関する調査より）
～忠岡町令和８年度の重点取り組みにかかる概要～

⑦【自分にはよいところがあると思う子どもたちを育てる】「自分には、よいところがあると思いますか」

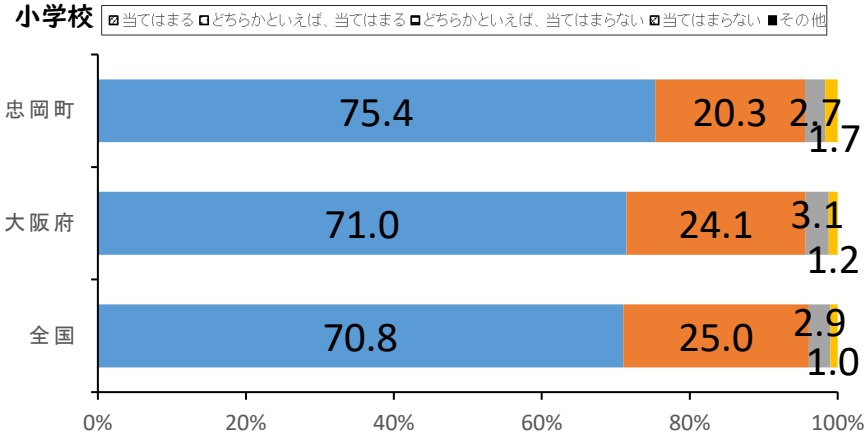
小学校においては、肯定的評価「当てはまる」の割合が、全国・大阪府に比べて高く、成果が見られる。
中学校においては、肯定的評価「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計割合が、全国・大阪府に比べて低く、課題が見られる。

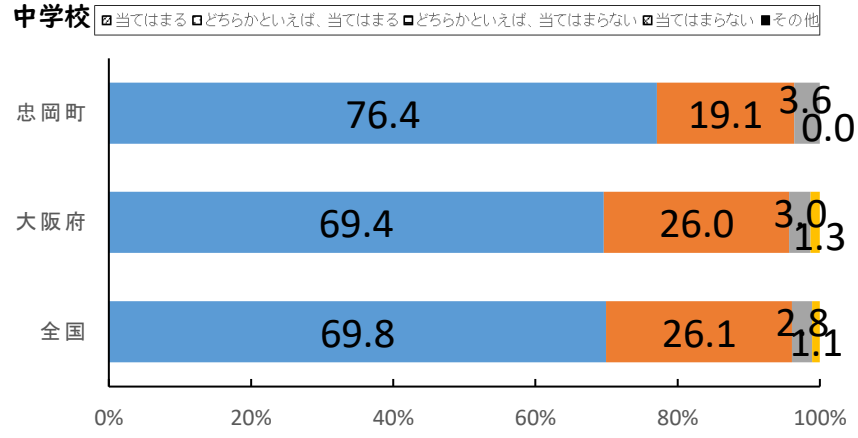




⑧【人の役に立つ人間になりたいと思う子どもたちを育てる】「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」

小学校・中学校ともに、肯定的評価「当てはまる」の割合が、全国・大阪府と比べて高くなっており、成果が見られる。





忠岡町における学力・学習状況に関する施策

●忠岡町授業改善推進事業（全小・中学校）：小・中学校における教育内容の充実と指導方法の工夫改善を図っています。
●学ぶ楽しさを育む推進事業（小１・２）：小学校１・２年生児童に落ち着いた学習環境の提供と基礎的・基本的な内容の確実な定着を図っています。
●忠岡町きめ細やかな指導のための講師配置事業（全小・中学校）：きめ細やかな指導を行うため、非常勤講師を配置して、少人数学級編制を実施しています。
●学力向上サポーター配置事業（小３・４）：基礎・基本の定着を図り、「確かな学力」を育むためのきめ細やかな学習支援を行っています。
●小学校読書活動推進事業（全小学校）：小学校に司書を配置し子どもたちの興味関心を高め、本に接する機会を増やしています。
●学力検査ＣＲＴ（小３・４）：児童の基礎・基本における学習のつまずきの把握と効果的な指導につなげています。
●小・中学校児童生徒学校生活意識調査〈Ｈｙｐｅｒ－ＱＵ〉（小５・中２）：よりよい学級集団づくりに向けた課題を把握することにつなげています。
●授業力向上支援：教員の授業力向上に向けた授業観察、及び指導・助言を行っています。
●授業力向上のための教員研修：教科・領域・校種の枠をこえた授業改善と校内研修を活性化につなげています。
●忠岡町授業改善に向けての連絡会：学力にかかわる情報共有と各校における学力向上を推進しています。
●小・中学校生活指導連絡会：小・中学校の９年間を見通した取組の共有と連携を推進しています。
●忠岡町英語教育推進事業：外部講師による町立小学校２年生の希望者を対象としたイングリッシュレッスンの提供等を行っています。

忠岡町立忠岡小学校

小学校　国語　漢字の書き取り。

考えられる成果

- ●基礎的な漢字力の向上。
- ●文章の流れにあった漢字を適切に使える力の向上。

正答率　ア74.5％イ46.8％
無解答率　ア8.5％イ10.6％

正答率が、全国比と同等。

これからの指導の方向性

・校内漢字検定の実施及び定期的な小テストの実施の継続。
・文章や日常の中で漢字を使う意識の向上。
　習った漢字を積極的に使って、自分の考えを書く習慣を育てる。
・文章の流れに合わせた漢字使用の指導の充実。
　文章づくりの中で、その漢字が内容を正確に伝えるのに適したものかを考える指導の工夫改善を行う。

成果が見られる設問

二　三　【花山さんの文章の一部】の下線部ア・イを、漢字を使って書き直す。
（みじかい）（ふしぎ）

小学校　国語　考えが伝わるように引用を使って書く。

考えられる課題

- ●引用の決まりの定着の低さ。
- ●自分の考えあった文章かどうかの判断のあいまいさ。
- ●限られた文字数の中で、必要な内容をまとめる経験不足。

正答率	19.1 %
無解答率	12.8%

正答率が、全問中最も低い。

これからの指導の方向性

・指定された条件をチェックする習慣づくり。
問題文にある引用の条件等に印をつけ、解答した文章がその条件を満たしているか確かめる習慣を育てる。

・「引用＋自分の考え」をかたちにする繰り返し学習。
「『○○』とあるので、～と考えます。」のように、理由と意見をセットで分かりやすく書くための型を身につける指導を繰り返し行う。

課題が見られる設問

二四　【花山さんの文章の続き】の空欄に入る内容を、【集めた情報】から抜き出して考えが伝わるように書く。

（引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる。）

小学校　算数　根拠を示して記述する。

成果が見られる設問

4（1）　全員分のアンケートが整理されていない学級を見つけ、その根拠となる人数を表1と表2の中から書く。

考えられる成果

●根拠となる数字を見つけ、それをもとに説明できる力の向上。

正答率	61.7%
無解答率	0%

正答率が、全国・大阪府平均より高い。
無解答者もいない。
（全国55.8%　大阪府56.2%）

これからの指導の方向性

・授業における自分の考えをノートに書く時間の確保。

根拠となる数字を使って、自分の考えをまとめ、ノートに書く時間の確保を継続していく。

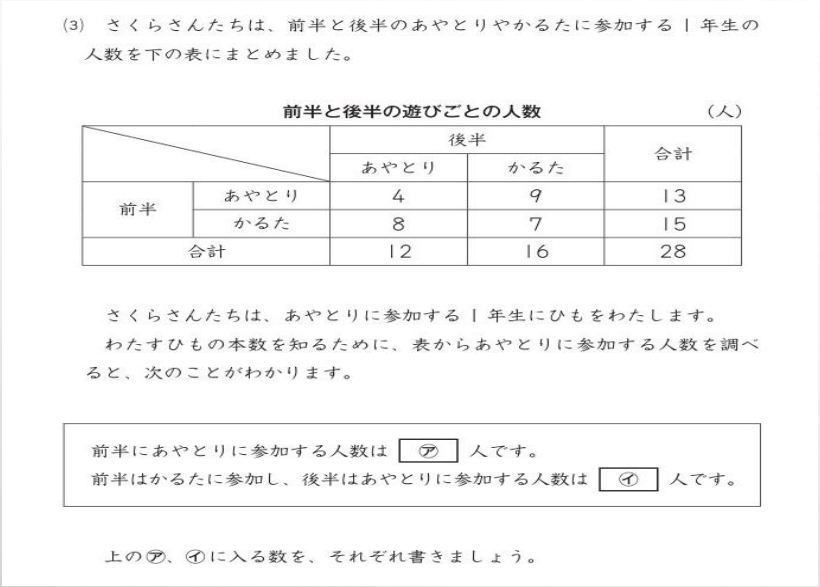
・友達との意見交流や助言しあえる活動による説明できる力の向上。

「どの数字を使えば伝わるか」「不要な数字はないか」等を友達と話し合い、アドバイスし合える活動を行う中で、より分かりやすく説明できる力の向上をめざす。

小学校　算数　二次元表の読み取り。

課題が見られる設問

4（3）二次元の表から、前半にあやとりに参加する人数と、前半はかるたに参加し、後半はあやとりに参加する人数を書く。



(3)　さくらさんたちは、前半と後半のあやとりやかるたに参加する１年生の人数を下の表にまとめました。

前半と後半の遊びごとの人数　（人）

		後半		合計
		あやとり	かるた	
前半	あやとり	4	9	13
	かるた	8	7	15
合計		12	16	28

さくらさんたちは、あやとりに参加する１年生にひもをわたします。
わたすひもの本数を知るために、表からあやとりに参加する人数を調べると、次のことがわかります。

前半にあやとりに参加する人数は　㋐　人です。
前半はかるたに参加し、後半はあやとりに参加する人数は　㋑　人です。

上の㋐、㋑に入る数を、それぞれ書きましょう。

考えられる課題

- 表のたてとよこが交わる仕組みの理解不足。
- 授業で二次元表を扱う機会の少なさ。

正答率	8.5%
無解答率	8.5 %

正答率が、著しく低い。

これからの指導の方向性

・算数の時間以外でも二次元表に触れる機会を増やす.。

算数の授業だけでなく、社会、理科等の教科や学級活動に関わるアンケートなどでも二次元表を使用し、整理する活動を取り入れる。

・たてとよこの交わる場所を確かめる指導。

「全体（合計）」を見ているのか「条件が重なる場所」を見ているのかを、指でなぞる等をして確かめる練習を重ねる。

児童アンケート

成果が見られる設問

（13）困りごとや不安がある時に先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。

「当てはまる」の割合が、全国の倍近い65.3％である。

考えられる成果

●教職員等に対して、児童の中で考えを否定されず、何でも相談できる雰囲気ができている。

●話し合い活動を進める中で、児童に自分の考えをきちんと伝えられることが大切であるという気持ちが育っている。

これからの指導の方向性

・これまで以上に児童に対する見取りを深め、教職員等との距離を近づけ、信頼が高まる取り組み、雰囲気の醸成を進める。

・「自分の考え、思いをわかりやすく、きちんと伝える」「他者の話をしっかり聞き、わかりにくい所があれば丁寧に質問する」等の指導を心がけ、様々な場面での話し合い活動の充実を図る。

児童アンケート

成果が見られる設問

（36 -4）あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校での活動でプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか。

考えられる成果

●タブレットを日常的に使いこなすスキルの向上。
●自分の考えをデジタルで表現することへの自信の向上。

肯定的回答が、79.6%。

これからの指導の方向性

・授業等におけるICT機器の活用の継続と質の向上。

低学年から、文字入力の目標を決め、教科授業や学級活動において、画像編集ソフト等を使って発表スライド等を作成することが全校的に行われており、今後さらにその作成物の質の向上をめざす工夫を行う。

・表現方法の選定を含めた「伝え方の工夫」の指導。

デジタルだけでなく、手書きのよさも理解し、伝える相手や自分にあった表現方法を考え、よりよいツールを自己選択したり、工夫したりできる力を伸ばす指導を考える。

児童アンケート

成果が見られる設問

(40)5年生までに受けた授業では、各教科などで
学んだことを生かしながら、自分の考えを
まとめる活動を行っていましたか。

考えられる成果

●学んだことを生かして、
前向きに表現しようとする
意欲の向上。

●自分の考えをまとめ、
深めようとする意欲の向上。

肯定的回答が、85.7%。

これからの指導の方向性

・学んだことを生かし自分の考えをまとめる活動の継続及び活動の工夫。

これまでの全校的な活動を継続し、「条件に合っているか」「書き漏らしはないか」等の
最終チェックの習慣化を行う。また、できたものの評価についても工夫を考える。

・自分の考えを深める活動と基礎・基本の学習の一体化。

話し合いや記述で考えを深める中で、関連する漢字や計算、言葉などを正しく使う活動の
大切さの理解を深め、基礎基本の力も同時に育てる。

児童アンケート

成果が見られる設問

（42）学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。

考えられる成果

●友達と話し合い、考えを深め合える学習の定着。

●自分の意見を安心して伝え合い、みんなで協力できる学級の雰囲気の醸成が進んだ。

肯定的回答が、87.8%。

これからの指導の方向性

・話し合いを活動の質の向上を図る。

これまでの活動の継続及び「相手が納得できる理由があるか」「問題の決まりに合っているか」等を友達どうしでしっかり確かめ合う時間を定着させる。

・学級が協力できる雰囲気を高め、それにより一人ひとりの学力の向上をめざす。

みんなで協力して話し合いを進めようとする雰囲気を高め、みんなが出した考えを自分のノートにまとめ直し、個人の学力も高めようとする姿勢を定着させる 。

児童アンケート

成果が見られる設問

（51）道徳の時間では、自分の考えを深めたり学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。

「当てはまる」の割合が、全国に比べて8ポイント近く高い。

考えられる成果

●道徳の授業の授業改善が進み、心の教育の充実に向かっている。

●道徳の内容項目と関連して、（10）「夢や目標を持っている」、（11）「人が困っていると進んで助ける」、（12）「いじめはどんな理由があってもいけないこと」の項目も全国に比べて高い。

これからの指導の方向性

・内容項目や登場人物の生き方について考えを深める発問・問い返し、話し合いの工夫をこれまで以上に行い道徳の時間の授業改善を一層進める。

・「心の教育の充実」に向け、道徳と関連した学校全体の取り組みの充実を図る。

児童アンケート

課題が見られる設問

（23）学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。
（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む。）

「全くしない」が、22.4%。

考えられる課題

- 家庭での学習時間が少ない子どもの多さ。
- 「自ら学びに向かう大切さ」の意識の低さ。

これからの指導の方向性

・自分で学習計画を決めて振り返る活動の工夫。

勉強する時間や内容を自分で決めさせ、できたことを記録して振り返る活動を行い、進んで学習に向かう姿を育てる。また、無理なく取り組める具体的な事例やアイデアを紹介する。

・「自ら学習することの大切さ」についての話し合い。

放課後の時間の使い方や「自ら何を学ぼうとする大切さ」について学級活動等で交流し、併せて「学びを続ける工夫」についても交流や情報提供を行う。

児童アンケート

課題が見られる設問

（26）学校の授業時間以外に、普段、1日当たり
どれくらいの時間、読書をしますか。
（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、
漫画や雑誌は除く。）

考えられる課題

- 日常的に本を開いて親しむ機会の少なさ。
- 自分に合った本を選んで楽しむ体験の不足。

「全くしない」が、36.7%。

これからの指導の方向性

・本を紹介し合うイベントの開催。

自分の好きな本を友達に紹介し合うイベント（「ビブリオバトル」等）を行い、「読んでみたい」という気持ちや読書の楽しさをみんなで共有する。

・授業、図書室、委員会活動と連携した本と出会うしかけづくり。

学級図書の充実を図る、国語の授業で扱う物語や説明文と同じ作者の本など並行して読める環境を図書室と連携して整える、図書委員会からの読書の啓発などを行う。

忠岡町立東忠岡小学校

小学校　国語　漢字の書き取り。

成果が見られる設問

２三イ花山さんは、【花山さんの文章の一部】を読み返し、習っている漢字がひらがなになっていた一部ア、イを漢字に書き直すことにしました。次の一部ア、イを漢字でていねいに書きましょう。

（ふしぎ）

正答率	64.0%
無解答率	0.0%

正答率が、
全国より18.8%、
大阪府より22.8%高い。

考えられる成果

●学年別漢字配当表に示されている漢字を、文の中で正しく使うことができる。

これからの指導の方向性

・引き続き、朝学習等で既習漢字の練習プリントに取り組む。
・宿題等で既習漢字を反復練習していく。
・タブレットを活用し、漢字練習に取り組む。
・読書活動を増やすことで、漢字を読む機会を増やす。

小学校　国語　文章の工夫を説明したものとして適切なものを選択する。

考えられる課題

●文章全体の構成を捉える力。

正答率	37.3%
無解答率	0.0%

正答率が、
全国より20.6%、
大阪府より20.2%低い。

これからの指導の方向性

・「説明文の家」などを活用し、文章全体の構成や枠組みを捉える活動を増やす。
・思考ツールなどを活用し、文章の工夫や自分の考えなどを可視化できるような活動に取り組む。
・短い文章を要約したり、筆者の意図を読み取る練習をしていく。

課題が見られる設問

２　【花山さんの文章の一部】まで書き進めた花山さんは、読み手もいっしょに考えて読むことができる文章になっているかどうかを確かめています。花山さんの文章のくふうを説明したものとして最も適切なものを、次の１から４までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

小学校　算数　分数の大きさを判断し、判断した理由を書く。

成果が見られる設問

3（3）7 /3 と 7/ 4では 、どちらの方が大きいですか。
下の ア から ウ までの中か ら1つ選んで、その記号を書きましょう。また、その記号を選んだわけを、数や言葉を使って書きましょう。

考えられる成果

●分数の概念が理解できている。

正答率	54.7%
無解答率	2.7%

正答率が、全国・大阪府平均より高い。
（全国44.0%　大阪府44.2%）

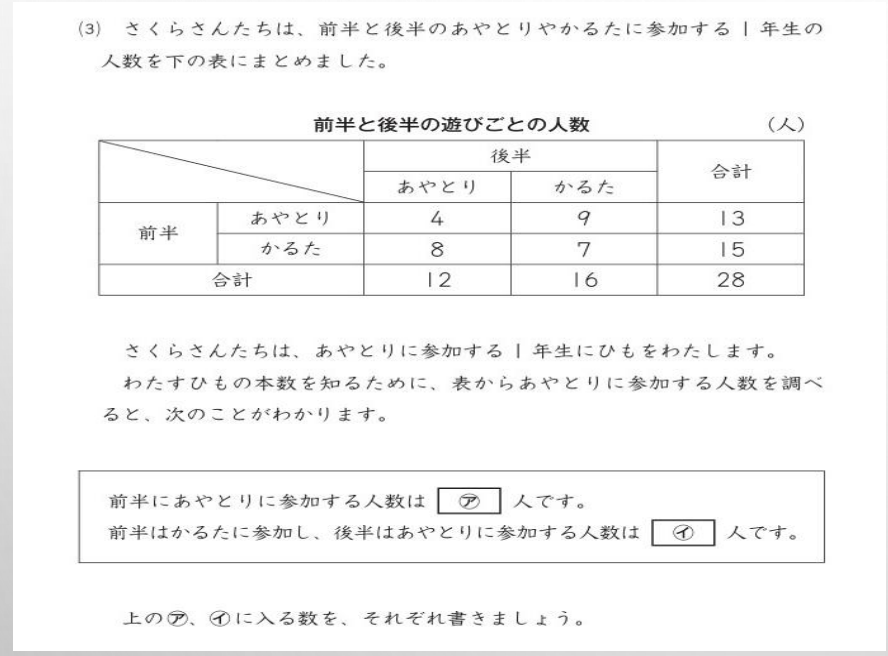
これからの指導の方向性

・低学年から数直線を活用し、自分で数直線を書けるようにする。
・実物を通して、分数を実感できる活動を取り入れる。
・テープ図やリットルます図と数直線図を結びつけて考える「量から数へのステップ」を繰り返し行い、視覚的に分数の意味を考えさせる活動を行う。

小学校　算数　二次元表の読み取り。

課題が見られる設問

4（3）二次元の表から、前半にあやとりに参加する人数と、前半はかるたに参加し、後半はあやとりに参加する人数を書く。



(3)　さくらさんたちは、前半と後半のあやとりやかるたに参加する１年生の人数を下の表にまとめました。

前半と後半の遊びごとの人数　（人）

		後半		合計
		あやとり	かるた	
前半	あやとり	4	9	13
	かるた	8	7	15
合計		12	16	28

さくらさんたちは、あやとりに参加する１年生にひもをわたします。
わたすひもの本数を知るために、表からあやとりに参加する人数を調べると、次のことがわかります。

前半にあやとりに参加する人数は　㋐　人です。
前半はかるたに参加し、後半はあやとりに参加する人数は　㋑　人です。

上の㋐、㋑に入る数を、それぞれ書きましょう。

考えられる課題

●条件に合う数を読み取る力。

正答率	9.3%
無解答率	1.3%

正答率が全国・大阪府平均より低い。
（全国17.9%　大阪府17.5%）

これからの指導の方向性

・普段の授業や朝学習の時間に、二次元の表から条件に合う数を読み取る問題に取り組んでいく。

児童アンケート

成果が見られる設問
(8) 自分には、よいところがあると思いますか。

考えられる成果
●縦割り活動などを通して、
自己肯定感が高くなった。

「当てはまる」が、70.1%。(全国43.6%)

これからの指導の方向性
・縦割り活動も4年目に入り、「レインボータイム」のとりくみを通して、成功体験や自分の役割意識を感じられる場が増えた結果、自己肯定感・自己有用感を高めることができている。引き続き、縦割り活動を通して、自己肯定感・自己有用感を高めていく。
・「ほめる」だけでなく、「理由をもってほめる」であったり、校内で取り組んでいる「学級力向上プロジェクト」を推進し、学級の中で自分が輝ける機会をたくさん設け、自分のよさのみならず、学級の友だちのよさを見つけることで、相乗効果を促していく。

児童アンケート

成果が見られる設問

（20）あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思いますか。

考えられる成果

●学級力向上プロジェクトのとりくみ。

「当てはまる」が、59.7%。（全国39.6%）

これからの指導の方向性

・「学級力向上プロジェクト」のとりくみが3年目に入り、日々のクラスの状況を児童自身が客観的に振り返ることができるようになってきているので、引き続き、取組みを続けていく。

・各学年の研究授業における学習指導案に、「発達支持的生徒指導」の観点を記載し、「発達支持的生徒指導」を常に意識した学習指導を行っていく。

児童アンケート

成果が見られる設問

（36−4）あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校での活動でプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか。

考えられる成果

●日々の授業でのタブレット活用。

「とてもそう思う」が、53.2%。
（全国44.9%　大阪府44.3%）

これからの指導の方向性

・町内で共有している情報活用能力を再度校内で共有し、各学年でタイピングやプレゼンテーションの練習に取り組んでいく。
・各学年で取り組んでいるプレゼンテーションなどを、校内で共有する。
・ICT学習ソフトを、引き続き活用していく。

児童アンケート

成果が見られる設問

（40）5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。

考えられる成果

●はがき新聞の活用。

肯定的回答が75.4%で、全国・大阪府よりも高い。

これからの指導の方向性

・「ふりかえり」の仕方を再度確認し、ふりかえりの充実を図る。
・はがき新聞を引き続き活用し、色々な教科で自分の考えをまとめる活動を取り入れていく。
・自分の考えを伝えたり、他者の考えを知る手立てとして、ICTを積極的に活用していく。
・思考ツールを活用し、自分の考えをまとめる手段を身につけさせる。

児童アンケート

成果が見られる設問

（42）学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。

考えられる成果

●ビブリオバトルの実施。
●聞き方・話し方ステップの徹底。

「当てはまる」が、49.4%と約半数。

これからの指導の方向性

・聞き方、話し方ステップを、低学年から徹底して取り組む。
・ペア、グループ、クラス全体など、場面に合わせた様々なかたちでの話し合いを実施していく。
・ビブリオバトルを継続的に取り組んでいく。
・学級力向上プロジェクトの中で、「スマイルタイム」を実施し、自己理解と他者理解を進めていく。
・話し合い後に、自分の考えの深まりや新たな気づきを実感できるようなふりかえりの時間を設定する。

児童アンケート

課題が見られる設問

(23)学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。
(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む。)

考えられる課題

●勉強している児童と、勉強をしていない児童の差が大きく二極化している。

「30分より少ない」「全くしない」を合わせると、39.0%。

これからの指導の方向性

・タブレットを毎日持ち帰っているので、インターネットや学習支援ソフト等を活用した学習の時間を増やしていく。
・「家庭学習チャレンジ週間」を活用し、目安の1時間(学年×10分)を達成できるように、家庭と連携を図っていく。

児童アンケート

課題が見られる設問

（26）学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。
（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く。）

考えられる課題

●読書の習慣がない。

無回答率36.4%。
（全国12.8%　大阪府14.6%）

これからの指導の方向性

・図書の時間を毎週確保し、じっくり本を読む時間を取るようにする。
・学校司書と連携を図り、図書の時間に読み聞かせ等を行い、本への興味関心を高めるようにする。
・電子図書を活用したとりくみを行っていく。
・「家庭学習チャレンジ週間」に今後も継続して取り組み、家庭での読書に対する意識を児童・保護者ともに高められるようにする。

忠岡町立忠岡中学校

中学校　国語　話し合いを受けて、タブレット端末の画面を説明したものとして適切なものを選択する。

考えられる成果

- 情報と情報との関係を理解できる。
- 必要な情報を抽出して判断できる。

正答率	69.1 %
無解答率	0.9 %

正答率が大阪府より高く、無回答率も最も低い。
（大阪府66.8%　全国70.4%）

これからの指導の方向性

・文章中から必要な情報を抽出するための情報処理能力を育成する発問を行う。
・さまざまな表現を理解して使うことができるように、語彙や表現に触れる機会を多くつくる。

成果が見られる設問

2

三

三　【話し合いの一部】の――線部③「今まで話し合ったことを受けて、〈音楽科の先生に相談すること〉と〈自分たちで取り組むこと〉に整理してみました。」とありますが、山下さんが【話し合いを受けて整理した画面】を説明したものとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

1　これから取り組むべきことを明確にするために、三人で話し合った課題を重要なものとそうでないものに分類している。
2　三人の考えを学級に分かりやすく伝えられるようにするために、アンケートの結果と話し合った内容を並べている。
3　これまでの話し合いの経緯が分かるようにするために、話し合いの中で出た意見を時間の流れに沿って並べている。
4　このあと取り組んでいきたいことを具体的に示すために、挙げられた課題を解決の仕方に応じて分類している。

中学校　国語　国語辞典を参考にして、「ほうふつとさせる」と同じような内容を表す別の表現を文章中から抜き出す。

考えられる課題

- ●語句の辞書的な意味を理解する力。
- ●文脈上の意味をとらえる力。

正答率	23.6%
無解答率	36.4%

正答率が、最も低い。
また、無回答率も最も高い。

これからの指導の方向性

- ・一人一台端末を用い、語句の正しい意味を調べる力を育成する必要がある。
- ・複数の意味を持つ語句については、文脈に沿った意味を捉えるために、文章の読解力をつける必要がある。

課題が見られる設問



4

二

二　林さんは、――線部「ほうふつとさせる」を正確に理解するために、「ほうふつ」を国語辞典で調べました。次の【国語辞典に載っていた意味】を読むと、6段落に「ほうふつとさせる」と同じような内容を表す別の表現がいくつかあることに気が付きました。【国語辞典に載っていた意味】を参考にして、それらの表現のうちどれか一つを6段落の中から抜き出しなさい。

【国語辞典に載っていた意味】

ほうふつ【彷彿】❶はっきりと脳裏に思い浮かぶこと。よく似ていること。❷おぼろげなさま。はっきりしないさま。

中学校　数学　三角形の合同を証明する。

成果が見られる設問

8

(2)

（2）前ページの**手順**で作図した∠POBが∠XOYの２倍の大きさであること、つまり∠AOB＝∠AOPであることを証明します。**図１**は、**手順**の④の図の点Aと点B、点Aと点Pを結んだ図です。**図１**において、AB＝AP、OB＝OPは**手順**から直接わかることです。これらを仮定とし、次のことがらを証明します。

図１

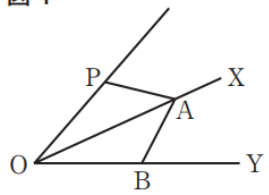


図１において、
AB＝AP、OB＝OP　ならば　∠AOB＝∠AOP　である。

上のことがらが成り立つことは、△AOB≡△AOPを示すことで証明できます。下の**証明**を完成しなさい。

考えられる成果

●筋道を立てて考え、証明することができる。

正答率　57.7%
無解答率　26.1%

正答率が大阪府・全国平均を上回っている。
（大阪府46.6%　全国46.1%）

これからの指導の方向性

・合同を証明するための道筋を理解し、論理的に三角形の合同を証明するための思考の仕方を確認する。
・合同条件に当てはまるポイントを文章で表現できるよう、整理する力を育成する。

中学校　数学　二つの度数分布多角形の形と位置を比較し、主張の理由を説明する。

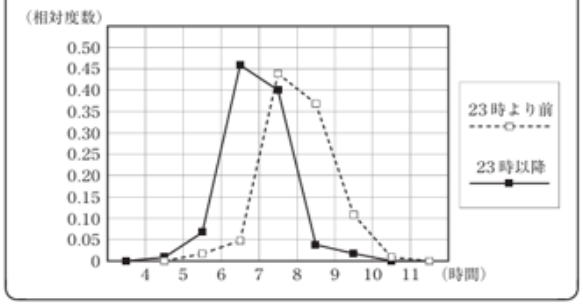
課題が見られる設問

９
（３）

悠真さんは、就寝時刻で分けた場合について、各階級の相対度数を求めて度数分布多角形に表しました。

悠真さんが調べたこと

就寝時刻が23時より前の生徒…152人
就寝時刻が23時以降の生徒……148人



悠真さんが調べたことの２つの度数分布多角形を比較すると、「就寝時刻が23時より前の生徒と比べて、23時以降の生徒の方が睡眠時間が短い傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、**悠真さんが調べたこと**の２つの度数分布多角形の形と位置を比較して説明します。前ページの**桃音さんのまとめ**を参考にして、下の**説明**を完成しなさい。

説明

したがって、就寝時刻が23時より前の生徒と比べて、23時以降の生徒の方が睡眠時間が短い傾向にある。

考えられる課題

- 比較的長い文章の問題のとき、何を問われているのか、何を解答しないといけないのかがわかっていない。
- 二つの度数分布多角形の特徴をもとに、説明することができない。

正答率30.6%　無解答率 40.5%

正答率が、最も低い。

これからの指導の方向性

- 比較的長い文章の問題のとき、重要な語句を抽出し、何を問われているのか、何について解答しなくてはならないのかを判断できる力を育成する必要がある。
- 度数分布多角形がどのようなデータを表しているのかを判断し、説明できる力の育成が必要。

生徒アンケート

成果が見られる設問

(12)いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。

考えられる成果

●いじめに対して、正しい理解が身についている。

肯定的回答が96.3%で、全国平均よりも高い。(全国95.1%)

これからの指導の方向性

・肯定的回答が96.3%となっており、学校として取り組んでいる「いじめについて考えよう週間」などの活動によって、生徒自身に「いじめは絶対に許されるものではない」とした正しい理解が浸透していると考えられる。しかし、昨年度とほとんど変化が見られないため(昨年度:96.2%)、引き続き班活動を中心とした仲間づくりを進め、安心できる学習環境、学級づくりにつなげていく。

生徒アンケート

成果が見られる設問

（33）地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。

考えられる成果

●郷土愛の醸成。
●社会貢献への意識向上。

肯定的回答が70.9%で、全国平均に近い。（全国72.3%）

これからの指導の方向性

・肯定的回答が、全国平均よりわずかに低いものの70.9%と高い。学校で取り組んでいるキャリア教育等を通じて、校内だけでなく、地域に対してどのようなことができるのかを考える意識が育ってきていると考えられる。
・地域と連携したクリーンキャンペーンなど、自分たちの行った行動が地域・社会にどのような効果をもたらすのか、子どもたち自身に体験させながら、考える機会を与えることを検討していく。

生徒アンケート

成果が見られる設問

（40）1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。

考えられる成果

●肯定的回答が、全国平均を上回っている。

肯定的回答が73.6%で、全国平均よりも高い。（全国70.8%）

これからの指導の方向性

・肯定的回答が、全国平均を上回っている（忠岡中73.6%、全国70.8%）。生徒に考えさせる発問の工夫などを行うとともに、班活動やペア活動を取り入れたことで、自分の考えを表現する時間が増えた。今後も、自分の考えを発表できる時間を増やしていく。

生徒アンケート

成果が見られる設問

（42）学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。

考えられる成果

●肯定的回答が、昨年度と比べ、大きく上回った。

肯定的回答が85.4%で、昨年度よりも高い。（昨年度71.0%）

これからの指導の方向性

・昨年度と比べ、肯定的回答が大きく上回っている（昨年度71.0%、今年度85.4%）。継続して取り組んでいる、授業中の話し合い活動や班活動による効果がみられる。今後も、取組みを継続していくとともに、班活動で仲間づくりを進め、話し合い活動の活性化につなげたい。

生徒アンケート

課題が見られる設問

(23)学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。
(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む。)

考えられる課題

●「全くしない」と回答している割合が、全国平均を上回っている。

「全くしない」が13.6%で、全国平均より高い。(全国6.9%)

これからの指導の方向性

・普段から勉強に取り組んでいる時間が全くないと回答した生徒の割合が、全国と比べて高い(忠岡中13.6%、全国6.9%)。普段から3時間以上勉強に取り組んでいる生徒の割合も、全国比−2.5%(忠岡中6.4%、全国8.9%)。
・家庭学習定着に向け、一人一台タブレットの活用などに取り組んでいく。
・進路学習を通じて、勉強をする意味を位置づけ、勉強を全くしない生徒の割合を減らしていく。

生徒アンケート

課題が見られる設問

（26）学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く。）

考えられる課題

●全く読書をしない割合が、全国平均を上回っている。

「全くしない」が49.1%で、全国平均より高い。（全国40.7%）

これからの指導の方向性

・全く読書をしない生徒の割合が、全国平均を上回っている（忠岡中49.1%、全国40.7%）。読書をすることで、「問題を読む力」にもつながり、長文読解力や無解答率の減少につながると考える。図書館活用と、読書をする習慣の大切さに気づかせたい。

生徒アンケート

課題が見られる設問

（36−3）あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか。

考えられる課題

●肯定的回答が、全国平均を下回っている。

肯定的回答が59.1%で、全国平均より大きく低い。（全国69.4%）

これからの指導の方向性

・肯定的回答が、全国平均を大きく下回っている（忠岡中59.1%、全国69.4%）。思考ツールや表などの作成を通して、思考を整理するためのタブレットの利活用を進め、子どもたちの情報活用能力の向上につなげたい。